

京都市 21 世紀産業振興ビジョン策定委員会

第 4 回会議（概要）

日 時	平成 13 年 12 月 26 日(水)午後 1 時 45 分から午後 3 時 30 分まで
場 所	京都ホテル 3 階「金剛の間」
出席者	吉田和男委員長，宗田好史副委員長，筋祥子委員，柿野欽吾委員， 佐々木佳代委員，堀場雅夫委員，吉田忠嗣委員，高木壽一委員，西口光博委員
次 第	開会 ビジョンの骨子案について 事務局から資料説明 ・ 「京都市 21 世紀産業振興ビジョン」骨子案について 意見交換（主な意見） ・ 「産業振興ビジョン」という名称と「ものづくり視点の振興施策」という内容が一致していない。名称の変更も考えるべき。 ・ 「スーパーテクノシティ」といっても，最先端の「バイオ」や「IT」という技術だけに限定していないことを示すべきである。 ・ 「スーパーテクノシティ」は，価値創造に結び付くものであり，高付加価値のものづくりや品質の高いサービスを提供していくものである。 ・ 産業施策と現場とを結び付ける総合プロデューサーを育てていくことが大切である。 ・ 消費者と一緒にあって産業，技術をつくっていくといった，市民，消費者の側に立ったものづくりが必要。 ・ 行動理念の実現に当たっては，大きなネットワークがないとできない。 ・ これからは第二創業をどう促進していくのかが重要となってくる。その意味で，目標に第二創業も含めるべき。 ・ 2010 年目標とすれば，エコビジネスなどの環境の視点を盛り込むことが必要。 ・ ビジョンの実現に当たっては，経済団体などとの幅広いパートナーシップが必要。